



性暴力救援センター・大阪(SACHICO) 開設後半年の現況

2010/12/1

阪南中央病院 産婦人科
性暴力救援センター・大阪

加藤 治子

性暴力とは

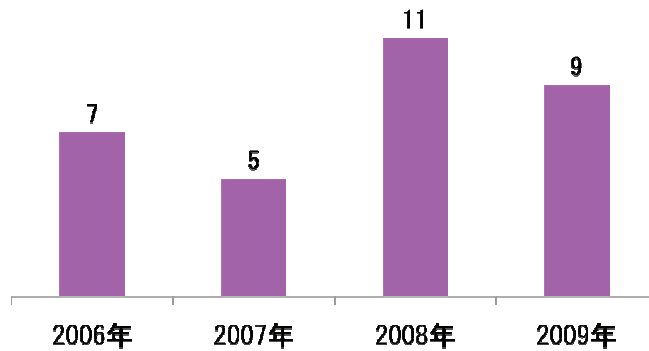
同意のない・対等でない・強要された性的行為はすべて
性暴力

- DVとしての性暴力
- 子どもへの性虐待
- 強姦・わいせつなどの性暴力

⇒被害者の心とからだを深く傷つけ、人間としての
尊厳を脅かす、人権問題であり、医療問題である。
被害者の多くは女性であり、その救援に向け、
産婦人科医療の果たすべき役割は大きい。

性暴力被害者の年次別推移

2006年1月～2009年12月
阪南中央病院 総数32例



2006～2009

性暴力被害者に対し医療にできること

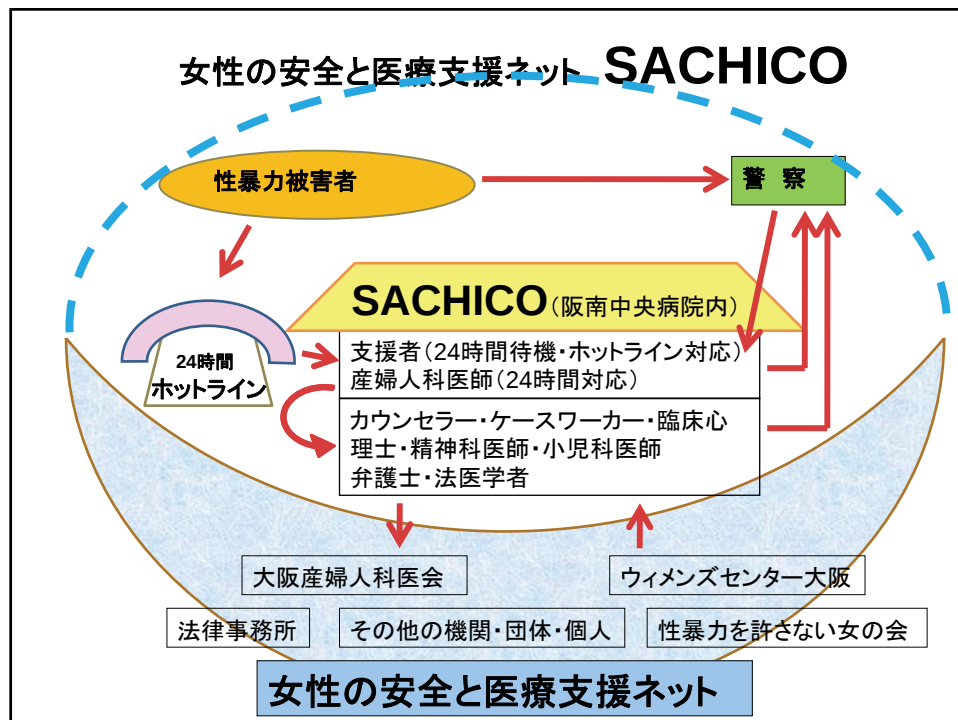
1. 女性に対する救急医療として取り組む＝初期対応の重要性
 - ・24時間体制でのホットラインと産婦人科的診療
 - ・心と身体の傷に対する診断と治療の開始（緊急避妊・STDの検査と予防的投薬・外傷の診察・妊娠中絶）
 - ・記録の保護と証拠採取
2. 被害者が選べる、決めることが出来る状況をつくる
3. 被害者のエンパワーメントを支える
 - 「あなたは悪くない」というメッセージを伝える
 - 支援の内容についての情報提供
 - 継続的な心のケアの提供
4. 安全な場所の提供
5. 他機関との連携
 - 弁護士・警察・女性相談センター・子ども家庭センター・役所など、被害者の意思とニーズを確認し、つなぐ

女性の安全と医療支援ネット

性暴力救援センター・大阪(SACHICO)

「被害直後からの総合的な支援」をめざし、
「性暴力救援センター・大阪
Sexual Assault Crisis Healing Intervention Center
Osaka(性暴力危機治療的介入センター大阪)(SACHICO)」を、
阪南中央病院内に設立。(2010年4月開設)

同時に、関連機関とのネットワーク
「女性の安全と医療支援ネット」を構築。



スタッフの養成

- 公募による支援員養成講座
（ウィメンズセンター大阪が担当）
面接による最終選考で支援員に
2010年9月より第2回養成講座を開催中
- 院内職員によびかけ院内講座を開催し、支援員に

準備室会議のメンバーについて研修後、一人でシフトに入りつつある
- 交通費程度の有償ボランティア

他の機関との連携について

- 警察
府民応接センターと捜査一課との協力
合同研修会開催(10/15)
- 産婦人科医師
大阪産婦人科医会がネットワークに参加
産婦人科医師向け研修会(4/10と5/20)
SACHICO待機医師を募集中
- 弁護士
23名の協力弁護士(うち男性1名)が2週毎の
待機シフトを作成
- 児童相談所
大阪府・大阪市・堺市・奈良県・滋賀県の児相と連携
- その他、全国の女性センターなどの紹介先リスト作成

SACHICO開設6カ月の現況

(2010年4月～9月)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	計
電話相談 件数	72件	43件	142件	134件	171件	142件	704件
電話相談 実人数	50人	29人	95人	61人	132人	89人	456人
来所実人 数	18人	17人	24人	29人	23人	27人	138人

レイプ・強制ワイセツ・性虐待直近被害にて SACHICOに来所し診療したケース

(2010年4月～9月)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	計
レイプ 強制ワイセツ	8人	5人	5人	10 人	2人	9人	39人
性虐待	3人	1人	4人	4人	3人	4人	19人

半年間で確認できたこと

- 24時間体制のホットラインと支援員の常駐の必要性
- 救援センターを産婦人科のある病院内に設置することの意義
 - ・24時間診療とフォローアップが可能
 - ・中絶手術が可能
 - ・入院治療が可能
 - ・被害者と支援員の安全性の確保が比較的可能

今後の課題

- ・ 事例毎のコーディネートの難しさ
- ・ 警察との連携上の問題
- ・ 被害者の医療費などの負担の問題
- ・ 支援員の養成と研修、24時間シフトの大変さ
- ・ 医師の業務量の増大
- ・ 寄付によるSACHICO運営の限界